

宮城県の被害状況

10月20日に、三浦さん、宮崎さん、鈴木の3人で丸森町へ出かけました。陸の孤島のような状態だった町の中心部は、ポンプで阿武隈川へ水を流し、泥かきも行われて、通行しやすくなっていました。

中心部にある、たんぼぼこども園で園長さんに話を聴くことができました。170名の子どもを保育している園は、床上浸水で使えなくなっています。近隣の方々の支援で部屋の泥かきを行っているが、衛生面の問題があるし、水がたまりやすい場所での保育が可能かどうかの判断もできないので、しばらくは保育ができないだろうということでした。



23日から姉妹園のひまわりこども園で合同の保育を午前中だけ再開することになったということでした。外から見ると、都会の園と比べて、園舎も園庭も駐車場も広く取られているように見えますが、120名定員の園に170名の子どもが加わっての保育は大変であろうと推察します。職員の半数の自宅が浸水している状況もあり、保育士さん達の身体も心配です。

保育を再開するに当たって、必要なものがあるかどうか聞いたら、手洗い用の消毒液やウェットティッシュなどの衛生用品が当面必要であるということでした。次の日に連絡を取って確認したら、既に手配できたと語っておられました。



次に、丸森町の山中にある大内保育所へ向かいました。途中の金山地区は、阿武隈川の支流が流れており、その一帯にある家々にはがれきが溜まっていたりして、被害は甚大に見えました。家具を取り出したり、畳をはがして積み重ねている様子が見られました。

大内保育所は、高い所にあるので、水害の影響はなかったそうです。町の浄水場が破損していて水が使えないので、休園しているということでした。

宮城県では、仙南の丸森町と仙北の吉田川沿いの大郷町の被害が大きいです。大郷町では、保育がすぐに再開されていて、被害は少なかったようです。

意外にも、仙台市郊外の仙石線小鶴新田駅のすぐ近くにある、新田東すいせんこども園が床上浸水で一階の保育室が使えなくなっています。内水氾濫という都市部特有の問題が起きています。

現在、把握できている被害状況は、以上のようなものです。10月20日以降の動きとして、10月25日に丸森にも大雨が降り、再び浸水が発生して、復旧を妨げています。水道施設が破壊されている水道については、隣の角田市に連なっている館矢間地域に角田市の水道施設をつなぐことで使用できるようにすると、29日に報道されています。そうすれば、館矢間地区にあるひまわりこども園では通常保育が可能になります。丸森町中心部の水道復旧は数ヶ月後になるようです。遅れながらも少しずつ復旧が進んでいます。それに合わせながら、適切な支援を考えていきたいと思っています。

(文責：鈴木)